

時代は階級的労働運動を求めている

関生支部への弾圧に屈せず 近畿労働者協同組合を設立

(上面左)

安倍政権下においてなされた関生支部への弾圧は産業別労働運動解体を支持...

反弾圧の闘いは、冤罪人権擁護等と闘っている全国...

食料安保論の落とし穴

大野和興(農業ジャーナリスト)日刊ペナ編集長



農業・食料問題の分野にも国家主義が押し寄せている...

この流れに無批判に乗っかっていくのか、そんな疑問をかねがねもっている...

易論がなつかしく思えるほどの様変わりである...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

敷接を参照ください。時代は組合員と全労働者の願いを体現した階級的労働運動を求めています。

資本主義体制の行き詰まりがわれわれに闘いの条件を与えている事に確信を持って闘うべきです。

2022年10月1日、労働者協同組合法という新しい法律が施行された。

労働者協同組合の特徴は他の協同組合、企業組合、NPO法人と異なる点として...

協同労働は、働く仲間と地域に繋がりを作る...

協同労働は、働く仲間と地域に繋がりを作る...

協同労働は、働く仲間と地域に繋がりを作る...

近畿労働者協同組合の設立にあたって

協同労働(清)近畿労働者協同組合専務理事



設立した近畿労働者協同組合の活動

昨年の10月16日、設立された近畿労働者協同組合(略称、近労協)は、11月1日法人登記が完了し、大阪府知事への届け8日に受理された。

関生支部の歴史的成果を築き上げていく

近畿労働者協同組合は、これまでの関生支部の歴史を継承し、成果をさらに新たな協同組合運動において発展させていく事を追求していきたい。

関生型運動は、支部という闘う統一司令部を設置、企業を超越し共通する統一要求を組織し、統一交渉行動、統一交渉を実現する事で幅広い団結体を行う。

関生型運動は、支部という闘う統一司令部を設置、企業を超越し共通する統一要求を組織し、統一交渉行動、統一交渉を実現する事で幅広い団結体を行う。

内閣府が中国侵略の先兵として使いつけられたのである...

ウクライナ戦争による食料安保への国家総動員体制が敷かれる...

ウサギたちがその糸を切って声を上げよう!

西沢江美子(「農と暮らし」記者)



卯年に赤い糸で口を縫い付けられたウサギたちがその糸を切って声を上げよう!

卯年ウサギといえは全国あちこちにウサギの民話や伝説があります。

私の人間形成の大きな一助になったのも、ふたつとウサギ伝説にまつわる話です。

それは、「ウサギは片耳を持ち、世界中の音がみんな入ってきたそのことをあれこれ話したり、危険を知らせたり、悪いことをやめよと叫んだりしていました。

それが「ウサギは片耳を持ち、世界中の音がみんな入ってきたそのことをあれこれ話したり、危険を知らせたり、悪いことをやめよと叫んだりしていました。

それが「ウサギは片耳を持ち、世界中の音がみんな入ってきたそのことをあれこれ話したり、危険を知らせたり、悪いことをやめよと叫んだりしていました。

それが「ウサギは片耳を持ち、世界中の音がみんな入ってきたそのことをあれこれ話したり、危険を知らせたり、悪いことをやめよと叫んだりしていました。

それが「ウサギは片耳を持ち、世界中の音がみんな入ってきたそのことをあれこれ話したり、危険を知らせたり、悪いことをやめよと叫んだりしていました。

それが「ウサギは片耳を持ち、世界中の音がみんな入ってきたそのことをあれこれ話したり、危険を知らせたり、悪いことをやめよと叫んだりしていました。

新年特集 各界から年頭所感

歴史的な大転換期—世界と日本を変える!!

「今問うべき課題はズバリ」

GSEF 2023年大会(アフリカ・セネガル)のダカール大会に向けて

津田直則 桃山学院大学名誉教授

はじめに

GSEF (グローバル社会的経済フォーラム)は、格差社会、社会的排除、環境破壊等に対抗して「社会的経済」を広げようという2013年の「ワウル宣言」に基づき、2014年のワウルでの第1回大会を出席点として、2年に一度世界各地で開催されている国際会議である。

① GSEFの大会経緯

上述のようにGSEF国際会議の第1回(2014年)はワウルで開かれ、2016年はカタマ・モントリオールで開催された。参加は世界62か国、330の都市、1500人の参加者であり日本からは5件ほどの発表があり、この中には活発な討論の対象となった社会的企業法や労働者協同組合を既に2007

それは先進国の「社会的経済」と途上国で広がる「連帯経済」の統合を含めながら展開されてきた。2002

7〜10年に実現していた韓国の行動力や、協同組合10年計画を作成していたソウル市長朴元淳(パク・ウォンスン)のリーダーシップには、多くの日本人が驚いた大会であった。

GSEF第2回大会(2016年)はカタマ・モントリオールで開催された。参加は世界62か国、330の都市、1500人の参加者であり日本からは5件ほどの発表があり、この中には活発な討論の対象となった社会的企業法や労働者協同組合を既に2007

5月にはアフリカ・セネガルのダカールで予定されているプログラムの詳細は未定である。

これは問題はなくなくを私は労働組合の協力、巨大独占企業との交渉による公正な経済実現の事例(英文津田代既)も含まれている大会最後に出されたモンリオール宣言では、「社会的連帯経済」の用語が使われており、GSEFも社会的経済と連帯経済とが統合する方向に進みだした。

第3回大会(2018年)はスペイン・ビルバオで開催された。参加は84か国、1700人、発表50団体であった。大会テーマにはモントリオール協同組合の本拠地での開催(「価値と競争性」(competitiveness))というキーワードが入っていたが、日本国内では、競争性には違和感をもつ議論の対象になった。競争システムでは、効率性と解釈する社会的連帯経済は資本主義

義を超越する次の経済体制になりえるとして期待する人が増えている。欧州ではGDPの8%、社会的連帯経済全体では10%を超える国も登場しつつある。GSEF国際会議は、社会的連帯経済のもつ価値観が資本主義の価値観よりも優れている点を世界に広める組織として、国連、ILOその他の国際組織からも高い評価を受けている。

しかし社会的連帯経済は、まだ新たな経済体制の「ひな形の段階」であり、解決しなければならぬ諸問題を多く抱えている。特に資本主義を超越する経済体制をめざす場合には、経済体制を構成するシステムそのものの構造を明確にするという重要な課題がある。GSEFのように数回にわたる大会の手法としては、人々、組織、組織、国と国等のネットワークを重視したワークショップ型発表が優れており高い成果を生むが、この手法は経済体制論の解明に必要な実証、分析、理論化等の方法論とは根本から異なる。後者はやはり研究者や専門学会の仕事である。

しかし双方は互いに補完しあうべき方法であり、今後両方をつなぐ道が模索されるべきである。

例えば研究者からの成果の一例として、欧州の労働者協同組合を中心とした協同組合体制は、株式会社に対抗できる優れたシステムである(証明した理論がある)と認められ、「連帯システム」である(拙著『資本主義を超越する経済体制と文

明』2003年岩波書店)を参照。連帯システムを形成すれば資本主義経済体制は超GSEFのような国際大会

速度の政治に閉じ込められるわたしたち

資本主義はそのシステムに固有の時間を生産する。たえず速度を高めていく衝動がほし、いともたやすく時間が足りない、もともと急ぎ立てられるひとに遅れまいとする不安が、取り残されるという不安が、データを信じて観る者のタイパ欲求を呼び起す。

この時間意識は、資本主義システムに固有な後進観念であり社会病理現象である。資本とは、たんなる物ではなく、よりの価値を増やす運動である。手持ちのマネーを、あるいは借り入れたマネーを流通に投げ入れ、より多くのマネーを手元にとりもつ運動である。この運動する時間が短いほど、よりの利益を手に入れることができる。マルクスは流通時間をゼロにしよとする資本の衝動(うに)資本の本質を読み取った。産業革命以来の輸送・交通手段の巨大な技術革新は、流通時間を圧縮し、空間を消滅させようとする動きを加速させてきた。

さらに、20世紀に生じた情報通信革命は、地球の

あらかゆる地点を情報ネットワークによって瞬時に結びつけるグローバルなサイ

バー空間を創出した。わたしたちは、みずからの身体がどこにいても短縮空間に引き合せて世界を創造する能力をだいに衰弱させ、サイバー空間の網の目に絡みとられた格子のような存在となり、日常生活におけるひとりの日常の要求が、GAFAMのような巨大情報資本のネットワークに吸い上げられ、ビッグデータによって解析され、操作され、かたちづけられるようになる。

加速する知識と情報のネットワークは、さらにひとの身体(内部)に侵入する。遺伝子学、分子生物学の発展によってひとの身体は遺伝情報のネットワーク・システムと化し、このシステムは、監視されるようになる。身体は技術が住まう環境と化し、技術によって植民地化される。

ポール・ヴァリオリ『黄昏の夜明け』(2003年)が洞察したように、資本主義とは「速度体制」であり加速のシステムであり、そこで

速度体制の事故と近代文明の破局

速度の富を求めて、地球上の地理的空間を移動する時間がかかりなく短縮され、地球空間が情報通信ネットワークによって一つに結ばれる。さらに、ひとや動物の生命体が遺伝子情報によって操作可能になる。この近代文明がもたらした科学技術の進歩は、だが同時に、世界を瞬時に消滅させる破局的な暴力を発生させる。科学技術は、ローカルな自然災害や局地的戦争や個人間・集団間の暴力を超えて、地球規模の複合的に広域的な暴力を発生させる。交通運輸手段の巨大事故(マンモス tanker)の沈没、大型飛行機の墜落、列車の転覆、自動車事故など、原子力発電の炉心溶融事故、情報通信ネットワークのシステム障害による世界的規模の電話・通信網の中断、金融派生商品の返済不能が引き起こす世界的金融危機、核抑止の国際政治がたえず引き起こす核戦争のリスク、化石燃料の大量採掘と大量消費がもたらす人新時代の地球環境危機、そして人工的に作成された

2008年の世界金融危機、2011年の福島原発事故、2019年から続く感染症の世界的まん延、2022年のウクライナ戦争の世界核戦争への転換の予兆は、速度の艦に閉じ込められた近代世界が地球と人類の消滅へと至る未来のシナリオを描いている。

時間は、私たちの身体や社会システムの外部にある客観的なもの(さ)ではなく、私たちの身ぶりや自己の存在や社会のありやともにつくりあげられるものである。ひとひとを分断して競争に陥らしたる社会を突き動かしている速度の政治と決別し、私たちが身体(身ぶり)のなかに時間のリズムをとりもつことと、そのなかに、わたしたちが資本のへびを脱して、富と時間を共同で組織する道へと歩みます。これが求められている。地域の自治組織、協同組合、連帯運動も多様なかたちで創造することによって、時間と空間への権利を共同の合意とすること、私たちの未来はそこにかかっている。

今年[GSEF2023ダカール大会]が社会的連帯経済を推進する会セネガルのダカール市で開催されます。若森資朗 <https://www.ssejapan.org/>

この紙面でも何回か紹介してきたGSEF (Global Social Economy Forum)の国際大会が、西アフリカ、セネガルのダカール市(=[GSEF2023年ダカール大会])の市庁舎を中心とし5カ所、2023年5月1日(月)〜6日(土)の予定で開催される。2013年ソウル市で準備大会が開催され、それ以降2014年ソウル市、2016年モントリオール市、2018年ビルバオ市、2021年メキシコシティ(オンライン開催)を経て今回は6回目の大会となる。開催国含め世界から毎回2,000〜3,000名が集まり、社会的連帯経済の価値と役割の討議が行われ、毎回100以上の実践報告がなされてきた。日本からは大会が組織し、毎回30〜40人規模で参加し、世界の仲間と交流してきた。今回はアフリカで開催される事から注目度も増しており、4000名〜5000名が参加すると見込まれている。またGSEFの事務局がソウル市からフランスのボルドー市に移転した初めての大会であり、成功を願っている。加えてロシアのウクライナの軍事進行により、対立と分断が戦争という形で進行する中での開催でもあり、社会的連帯経済が標榜する連帯と協同の大切さ、そして個人の尊厳を尊重し、自立への希求を確認していく大会として、また連帯と協同の価値を世界に発信する意味ある大会となるだろう。

あらためて利益優先と競争の新自由主義が生み出している格差、差別、環境破壊、そして究極の戦争をもたらしている今日の社会に対し、協同と連帯を対置する「社会的連帯経済」を「富利を目的とせず、相互扶助や協同をベースとし、人間の関係性や自然との共生を大切にされる経済活動一般」の今日的価値を確認する。国連ではSDGsの達成に向けたSSEの役割が、強く認識されている。とりわけGSEFの重要な特色は、社会的連帯経済と基礎自治体の連携による、

- 1)生活の場の民主主義。
- 2)働く場の民主主義。
- 3)基礎自治体による参加民主主義、の実現が戦略的に構想され、実践の成果を持ち寄り共有することをめざしている。

●日本から3団体が報告予定

なお今回の大会には、日本からは当会の推薦で、以下の3団体が報告する予定とされている。そのために参加準備を進めている。

テーマ1:若者と女性のためのディーセント・ジョブ(人間らしい働き方)に資する協働的で持続可能な経済のための公共政策の共同構築
*ワークスコレクティブ「はたらく・さま〜就労支援」の取り組み

テーマ2:持続可能なブルーエコノミー(海洋経済)、伝統的な漁業の維持、持続可能な新規雇用の創出、社会と環境の保護
*若手県重茂漁協の取り組み

テーマ3:地域、食料自給、そのガバナンスのための協働的で持続可能な「グリーン経済」 *山形県庄内FEC自給ネットワーク構想

最後に【第6回社会的経済・連帯経済(SSE)に関する世界フォーラムの目的】を記す。

◆第一の政治的目標:フォーラムには、世界中から選挙で選ばれた議員やリーダー、国際的な専門家や開発機関が集まり、17の持続可能な開発目標を達成するために不可欠な、人と環境の尊重を中心としたこの新しい経済の推進を約束します。

◆第二の目的:すべての大陸で実施されている経験と専門知識の交換に焦点を当てること。自治体やSSEに関わるすべてのアクターが行ったイノベーションの成功例を、7つのテーマで紹介し、

[GSEF2023年ダカール大会] <https://www.gsef-net.org/en/node/27935>

速度の艦からいかにして脱出するか

世界危機の根源にあるもの

世界危機の根源にあるもの

世界危機の根源にあるもの

世界危機の根源にあるもの

世界危機の根源にあるもの

2003年岩波書店

2003年岩

青年たちは、今年 新年座談会

命を守ることがすべての原点

東京・横浜基地から流出した汚染物質が水道水に混入している... 市民有志が住民の血液検査を呼びかけ記者会見を開いた。しかし大きなニュースにはならず、基地問題は沖縄だけだと思いつく首都圏の人々の無関心が怖い。

記者会見
多摩地域での有機フッ素化合物 (PFAS) 血
今後の計画および国分寺での検査実施、開



「目的のテーマは戦争と危機の時代における戦と平和です。今、南西諸島では自衛隊と武器が統々と配備さ

「Ⅱ」反戦と平和—民衆から生まれる新たなパラダイムを求めて

（6面から）社長のような生き方に何の価値もないことばかりです。私もですが、みんなをうすめたいのか、わかるな

日本の歴史は被害の歴史として描かれてきたので、そのうでない歴史を学ばせてよ



ウクライナ反戦のうねりをどう継続・発展できるかが今年の課題だ。



新年早々、海上自衛隊が公式にSNSに投稿した写真が話題だ。侵略戦争の象徴である旭日旗を掲げ、漫画のハロディで「正義」と書かれた服を着てポーズを決める。9条を持つ日本が、アジア諸国を挑発するこの無思慮な振舞いをしてよいはずがない。

宮間：聞いていて思ったのは、戦争反対と声をあげたり、デモは足踏みには、これに興味を持っては、その精神的余裕があることが前提です。今の労働は昼夜問わず

戦争は日常生活で準備される 目の前の暴力に抗うことが第歩

いつかは、若者の今も薄れずに日本全体で受け入れられていくと思う。ただ、平和という言葉が右派に取られるのは怖いな

